

山の中の海軍の町 にしき ひみつ基地ミュージアム第2期整備の概要

2021/03/01

プレスリリース追加資料

目的・事業内容

人吉海軍航空基地は、太平洋戦争中の1943年（昭和18年）11月に建設が開始され、全長1,500m、幅50mのコンクリート製滑走路を有する飛行場と、本部庁舎や実習棟、兵舎が建ち並ぶ庁舎居住地区からなる本格的な航空基地であった。1944年（昭和19年）2月に人吉海軍航空隊が発足した当初は整備兵を養成していたものの、5月からは海軍飛行予科練習生が入隊し、6,000名超が「山の中の海軍航空基地」で飛行機整備術を学んでいた。

1945年（昭和20年）には2度にわたる空襲と戦況の悪化により、教育施設から特攻訓練基地、そして本土防衛基地へとその役割を変えていくこととなり、上空では、「赤とんぼ」の愛称で知られる九三式中間練習機が特攻訓練を行いながら、地上では本土決戦に備えた膨大な数の地下施設等の建設が進められた。

終戦後76年たつ現在、当地では大規模な開発が行われなかったことから、約25,000㎡の地下施設のうち、約40%にあたる10,000㎡、総延長にして3,800mの地下施設（作戦室・無線室、魚雷調整壕、兵舎壕、倉庫壕、設営隊兵舎壕等）が当時のままの良好な状態で現存し、このほかにも隊門跡など地上に多数の施設が存在している。

全国的にも戦争の記憶や遺構自体の風化が懸念されるなか、本町では現存する遺構を地域資源と捉え、2018年8月に平和教育と戦争遺構観光の融合に向けた拠点として「山の中の海軍の町にしきひみつ基地ミュージアム」を整備した。

ミュージアムでは、太平洋戦争や人吉海軍航空基地に関する歴史を記した展示に加え、隣接する地下施設へのガイドを行っており、オープン直後から想定を大幅に上回る来場が続いている。

一方で、ミュージアムはコンパクトな造りとなっているため、学校関係者や旅行事業者から修学旅行や団体客の受入れ要望が増加したことを受け、施設の増設を計画することとなった。

ミュージアムの敷地内に新たな施設を新築し、200人を収容可能な学習スペースや戦争体験談動画等を上映する視聴覚スペースのほか、奇跡的にタイヤが現存する九三式中間練習機（通称：赤とんぼ）実物大模型及び戦争関連の寄贈品等を展示するスペースを計画。

また、現存する遺構を見学するフィールドワークルートの構築に向け、隣接する地下施設入口の安全確保を目的とした整備や、滑走路跡を一望できる展望台、修学旅行・団体客に対応するための駐車場・トイレの設置、これに加え、フィールドワークの終着地となる松根油工場（※）の進入路整備も実施した。

※当時、基地（飛行場）と庁舎居住地区は2 km 以上離れていなければならないという規定があったことから、本施設から北側に約2 km 続く軍用道路の先に庁舎居住地区が設けられた。また、航空燃料となる石油の代替品を製造する松根油工場はこの地区内に建設されたため、本施設とは離れた場所に位置している。しかし、当時の日本では松根油の製造が国家プロジェクトとして推し進められ、石油不足という現代では考えられない状況を知ることができる貴重な遺構となっている。さらに、軍用道路やその道沿いの遺構も現存しているため、本施設を起点に軍用道路を移動しながら様々な遺構を見学し、松根油工場を終着地とするフィールドワークを構築することで、修学旅行を誘致するに当たり必要とされる2時間の見学ルート、コロナ対策となる分散型周遊ルートを構築した。

これらの取組みにより、戦争の記憶・記録を継承する平和教育と戦争遺構観光の融合がさらに発展・深化するだけでなく、修学旅行客・団体客向けのツアーを実施することで、宿泊や地元製品の消費拡大を通じた観光消費額の増加、昨年7月人吉球磨を襲った豪雨災害からの復興にも寄与するものとなる。

九三式中間練習機（陸上）【K5Y1】（通称：赤とんぼ）

ミュージアムの館内に展示される実物大模型は、正式名称を九三式中間練習機といい、昭和9年に制式採用された飛行機で。実用性、操縦性、安定性に優れ約5,770機製造された。練習機として目立つようにオレンジ色にカラーリングされた機体はその容姿の特徴から、「赤とんぼ」と呼ばれ、終戦時、人吉海軍航空基地には約141機の航空機が残され、うち96機が赤とんぼであった。時の練習機として飛行機乗りには思い出深く、また武器を常設していない機体でもある。

今回は、可能な限りの調査を行い、現在の技術をもって復元している。

実物大模型スペック

翼幅: 10.99 m 全長: 8.05 m 全高: 3.20 m

発動機: 日立「天風一一型」空冷星型9気筒

参考

野原茂 『世界の傑作機 No.44 93式中間練習機』掲載図面・イラスト提供

プロペラ採寸 茨城県笠間市「筑波海軍航空隊記念館」

エンジン「天風」筑前町立 太刀洗平和記念館

インドネシア軍事博物館所蔵 現存機公開資料等

整備事業内容

ミュージアム2期整備

今回整備する拠点施設の機能性を高めるため、1500mの滑走路跡を一望できる展望台や数百人規模の団体にも対応できるトイレの増設、修学旅行、団体に対応するための大型バス駐車場と憩いスペース、200人が収容できる学習やオリエンテーションスペースなどの整備を行った。

視聴覚スペースでは、戦争体験談や歴史の学習、関連書籍を閲覧することができ、展示スペースでは、これまで寄贈された戦争関連の品を紹介、山の中の海軍の実態、銃後の暮らしを紹介する。また、人吉女子挺身隊が組立に携わった艦上攻撃機「流星」の風防を展示。国内に現存する流星部品はこの風防のみである。

※銃後：直接戦闘には関わっていないが、間接的に何らかの形で戦争に参加している一般国民

館内にはグッズの販売、飲食、町の文化財などを紹介するスペースも設置、九三式中間練習機（赤とんぼ）の実物大模型展示スペースは、二階からの展望のほか、階段に腰かけてのオリエンテーションスペースとしても利用できる。

フィールドミュージアム整備

地域内に現存する人吉海軍の戦跡を回遊する際に、子どもや身障者などが安全に立ち入ることができるための進入路の整備として、メインの見学箇所である地下魚雷調整場、兵舎壕、作戦室・無線室エリアに駐車スペース、トイレを設置した。

ミュージアム2期整備内訳 【合計 417,900 千円】

| | |
|------------------------------|------------|
| 人吉海軍航空基地資料館第2期整備工事 | 307,400 千円 |
| 人吉海軍航空基地資料館第2期整備設計監理業務 | 24,800 千円 |
| 人吉海軍航空基地資料館第2期展示制作業務 | 15,900 千円 |
| 九三式中間練習機（陸上）[K5Y1] 原寸大模型製作業務 | 27,200 千円 |
| 人吉海軍航空基地資料館第2期整備外構工事 | 38,100 千円 |
| 人吉海軍航空基地資料館外構照明設置工事 | 2,900 千円 |
| 人吉海軍航空基地資料館桜植栽工事 | 500 千円 |
| 人吉海軍航空基地資料館外構法面工事 | 1,100 千円 |

フィールドミュージアム整備費内訳 【合計 32,600 千円】

| | |
|-------------------------|-----------|
| 由留木地区人吉海軍遺構進入路及び駐車場整備工事 | 11,700 千円 |
| 由留木地区魚雷調整場前トイレ設置工事 | 8,400 千円 |
| 兵舎壕・作戦室・無線室電気設備工事 | 1,200 千円 |
| 平岩地区人吉海軍遺構進入路及び駐車場整備工事 | 11,300 千円 |

2 期整備設計コンセプト等

2018年8月に初めてこの地に開館した資料館は多くの来館者を迎える中、学校を中心とした関係者から「平和教育の場」等として施設拡充の要望を受け、それに応えるために既存資料館のリニューアル・増築の計画がすすめられました。

工事が進捗する中、コロナ禍による材料調達の遅延、7月豪雨による1か月間現場を動かせない状態が続くなど工事完成までには幾多の苦難がありました。

2020年11月30日に建築工事は竣工し、その後内部の展示制作、外構、駐車場工事の段階に入っていました。2月23日には、茨城県の工場で作成を進めていた実物大航空機模型の搬入が始まり、3月1日にリニューアルオープンを迎えます。

| | |
|-------------|----------------------|
| 2019年7月 | 設計業務発注 |
| 2019年12月 | 人吉海軍航空基地資料館第2期整備工事発注 |
| 2020年11月30日 | 建築工事竣工 |
| 2021年2月26日 | 展示工事竣工 |

設計コンセプト

- ・学習室は団体を受け入れる場所としての機能のほか、特別展示会場としての機能、防災施設としての機能を持つこと。
- ・実物大模型展示ルームは展示される赤とんぼを魅力的に設置できること。
- ・屋内、屋外を問わず全体として「人々の交流の場」をイメージしながら進めること
- ・若い人たちに配慮したデザインに心がけること。
- ・既存のデザインを基調とし統一感を損なわないこと
- ・外部仕上材と同じものを内部に採用することで内外の一体的化を図ること
- ・仕上げ材はシンプルなものとし、共有するイメージの「倉庫的展示場」を実現すること(針葉樹合板とガルバ波板鋼板を多用することにより戦中・戦後の家屋のイメージを表現)
- ・細部についてはラフ感を出すためにあえて整ったおさまりにしないこと。

建築内容

| | | | | | | |
|----|---------|---------------------------|----|-----|----|--------|
| A棟 | 事務所・展示室 | 540.18 m ² | 構造 | 鉄骨造 | 基礎 | 地盤改良基礎 |
| B棟 | 学習スペース | 249.68 m ² | 構造 | 鉄骨造 | 基礎 | 地盤改良基礎 |
| C棟 | トイレ・控室 | 60.86 m ² | 構造 | 木造 | 基礎 | べた基礎 |
| D棟 | 特別展示室 | 床面積 101.85 m ² | 構造 | 木造 | 基礎 | べた基礎 |

整備関係者

発注担当者

錦町企画観光課地域振興係

担当 地域振興係長兼人吉海軍航空基地資料館長 蓑田興造

設計事務所（三者共同設計）

（株）西日本建設測地社一級建築士事務所 松田了一

（株）トポスペース建築研究所 柿内毅

（株）SDA 建築設計事務所 牧野 朋子

建築工事

岩井・三和建設工事共同企業体 代表岩井工務店 代表取締役 岩井和彦

展示

（株）彩工房 代表取締役 山口真広

当館は、記憶を残す使命を持っています。建物が「完成して終わり」でなく「いまから」が重要です。「山の中の海軍の町 にしき ひみつ基地ミュージアム」に来館いただいた方々が自ら歴史を知り、自ら感じ、この資料館や地下施設の体験を経て自ら平和とはなんであるかを考えることで平和がつながることを願っています。

【お問い合わせ】

プレスリリースに関して

担当 錦町役場企画観光課地域振興係長兼ミュージアム館長 蓑田興造

電話 0966-38-4419（直通）メール kou-minoda@nishiki.kumamoto.jp

